

案内

第14回 日本旅行医学会大会

日時：4月18日(土)・19日(日)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホール(東京都渋谷区)

テーマ：人と環境の旅行医学

プログラム：

4月18日

海外医療事情①「カナダ最新医療事情」宮坂勝之(聖路加国際大学大学院周麻酔期看護学特任教授)、②「インドネシア・ジャカルタ最新医療事情」原稔(ジャカルタジャバンプラバ医療相談室)／大会長講演「曾祖父森嶋外の知られざる近代医学への功績—ドイツから学び日本で実践した予防医学」森千里(千葉大学大学院医学研究院環境生命学教授、千葉大学予防医学センター長)／ランチョンセミナー「感染症コントロールと環境整備(仮)」／旅行医学のトピックス1-①「産業医学と旅行医学のクロスロード—産業医学と旅行医学、出す側と診る側、そのクロスロードに立って見えたものは？」篠原恵介(シャープ(株)産業医)、②「足腰元気で旅行に行くために—ロコモティブシンドロームを知っていますか？」岸田俊二(千葉大学大学院整形外科助教)／旅行医学のトピックス2-①「旅行医学の歴史と展望」篠塚規(日本旅行医学会専務理事)、②「近年の環境変化と子どもの健康への影響について」戸高恵美子(千葉大学予防医学センター教授)

4月19日

海外招待講演①「地球環境の変化と人の健康に関する最近の話題」マイケル・デブリッジ(英国エクセター大学)、②「なぜ起こる？腰痛のメカニズム」ローラ・ストーン(カナダ・マギル大学)／特別講演「航空機の過去、現在、そしてJAXAが目指す安全で環境に配慮した未来の『空』」中橋和博(JAXA理事・航空本部長)／ランチョンセミナー「遺伝子解析でみた日本食の栄養特性」宮澤陽夫(東北大学未来科学技術共同研究センター戦略的食品バイオ未来技術構築プロジェクト教授)／旅行医学のトピックス3-①「海外旅行で受ける放射線のレベルと健康影響」保田浩志(放射線医学総合研究所上席

研究員)、②「PM2.5をはじめとする大気汚染の健康影響と対策」島正之(兵庫医科大学公衆衛生学教授)／公開講座「環境と人間の健康—登山から学んだ高齢化社会の健康法」今井通子(東京農業大学客員教授・(株)ル・ベルソー 代表取締役)

参加費：医師1万2000円、その他6000円(2日間、懇親会含む)

問い合わせ：事務局

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-19-12-302

TEL：03-5411-2144

FAX：03-3403-5861

E-mail：info@jstm.gr.jp

http://www.jstm.gr.jp

案内

2015年日本旅行医学会 開催予定セミナー等

1. 2015年認定講座・試験(看護師他)

日時：6月13日(土)

会場：東医健保会館 2階ホール(東京都新宿区)

2. 2015年度認定講座・試験(医師)

日時：6月14日(日)

会場：東医健保会館 2階大ホール

3. 第9回登山医学セミナー

日時：7月4日(土)

会場：東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂(東京都新宿区)

4. 第1回関西・登山医学セミナー

日時：7月5日(日)

会場：大阪医科大学新講義実習棟101教室(大阪高槻市)(予定)

5. 第2回関西感染症・ワクチンセミナー

日時：10月4日(日)

会場：大阪医科大学臨床第一講堂(予定)

6. 2015年秋のイブニングセミナー(全2回予定)

〈第1回〉

日時：10月16日(金)

会場：代々木研修室国際英語学校代々木教会ビル4F大会議室(東京都渋谷区)(予定)

〈第2回〉

日時：10月30日(金)

会場：代々木研修室 国際英語学校代々木教会ビル4F大会議室(予定)

7. 2015年第8回東京大会

日時：11月15日(日)

会場：東医健保会館 2階大ホール

8. 2015年第9回看護部会

日時：12月12日(土)

会場：東医健保会館 2階ホール

問い合わせ：事務局

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-19-12-302

TEL：03-5411-2144

FAX：03-3403-5861

E-mail：info@jstm.gr.jp

http://www.jstm.gr.jp

案内

第11回 ICMアジア太平洋地域 会議・助産学術集会

日時：7月20日(月)～22日(水)

会場：パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

テーマ：すべての妊産婦と赤ちゃんに助産師のケアを

プログラム：

20日：市民公開講座「Staring at the Origin of Assistance for Raising Child and Family : What I Learned Through My Experience Supporting Children with Life-threatening Illness and Their Families(子育てと家族を支える原点を見つめる—難病の子どもと家族への支援を通して)」大住力(公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を代表理事)、座長：福井トシ子(公益社団法人日本看護協会常任理事)／次世代育成事業(横浜市との共催、中高生対象の内容予定)「The Future of Having a Baby in Japan(これからの日本で子どもを産むということ)」河合蘭(出産ジャーナリスト)、座長：瀧元純子(ふちもと助産院)／自由集会1「Breastfeeding Help and Support(母乳育児支援)」、2「女性の寄り添う助産教育を考える」、3「もはや産科では、子どもは産まれない?『混合病棟』における分娩の安全と質を考える」、4「アジア・アフリカの助産ケアを考えよう!」、5「助産診断名の臨床への応用—電子カルテにどのように導入するか」、6「ベリネیتال・ロスのケア—体験者の声を聴こう」／ワークショップ「Introduction to Research Methods」Judith Mc Ara-Couper(ICM Research Standing Committee)／WHO

Panel「Quality of Care : the Latest WHO Guidelines, Tools and Materials」WHO

21日：開会式&フラッグセレモニー／
会 長 講 演「Midwifery Care for Every Mother and Their Newborn(すべての妊産婦と赤ちゃんに助産師のケアを)」坂本 すが(公益社団法人日本看護協会会長)、座長：高田昌代(一般社団法人日本助産学会理事長)／基調講演：Frances Day-Stirk(ICM President)、座長：加納尚美(茨城県立医療大学保健医療学部看護学科教授)／特別講演1「Support for the Midwifery Activities in Asia : The Establishment of the Vietnamese Association And Mongolian Association of Midwives(アジアにおける助産師活動支援—ベトナム助産師会とモンゴル助産師会の立ち上げから)」南野知恵子(元参議院議員)、座長：岡本喜代子(公益社団法人日本助産師会会長)、2「Obstetric Compensation System and Clinical Safety(産科医療補償制度と周産期における医療安全)」後信(公益財団法人日本医療機能評価機構医療事故防止事業部部長)、座長：村上明美(神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科長・教授)／教育講演「Learning Kristeller Maneuver from the Original Paper(原著に学ぶクリステル胎児圧出法)」池之上克(公益社団法人日本母性衛生学会理事長)、座長：福井トシ子(公益社団法人日本看護協会常任理事)／Regional Meeting／ワークショップ「Postpartum Care(今、求められている産後ケア)」市川香織(産前産後ケア推進協会、文京学院大学保健医療技術学部看護学科准教授)、坂梨薫(関東学院大学看護学部看護学科)、萩原玲子(武蔵野大学附属産後ケアセンター桜新町センター長)、座長：安達久美子(首都大学東京健康福祉学部看護学科教授)、井本寛子(日本赤十字社医療センター看護副部長)、「Apply Research Evidence to Midwifery Practice(エビデンスを助産実践に活かそう)」大田えりか(国立成育医療研究センター研究所)、村山綾子(東京大学大学院医学系研究科アドバンストナーシングテクノロジー講座)、永森久美子(聖路加産科クリニック)、座長：江藤宏美(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻教授)、井村真澄(日本赤十字看護大学母性看護学助産学教授)／

WHO Related1「WHO-UNFPA workshop on introducing direct entry midwifery where there is no faculty - regional lessons learned」、2「ICM-WHO workshop on tobacco cessation」、3「WHO workshop on the new WHO Midwifery Educator Core Competencies tool」／ガラディナー

22日：シンポジウム「ICM : Twinning Projects(「助産ケア—2国間相互支援プログラム)」谷口初美(九州大学大学院医学研究院保健学部門助産学教授)、Speakers from Vietnam, Australia, Papua New Guinea、座長：Mary Kirk(ICM Asia Pacific Regional Board Member)、Nester T. Moyo(ICM)、「Support of Mothers and Children in Preparation for Disasters(災害に備えて母子支援をしよう)」Karen Guillard(NZ)、Corazon L. Paras(Philippines)、真坂雪衣(石巻赤十字病院病棟看護師長)、八木橋香津代(スズキ記念病院看護部長)、座長：中根直子(日本赤十字医療センター看護部長)、五十嵐ゆかり(聖路加国際大学母性看護学・助産学准教授)／ワークショップ「Learn the Professional Skills from Japanese Independent Midwives(日本の助産師の技を受け継ごう)」山本詩子(山本助産院)、神谷整子(みづき助産院)、矢島床子(矢島助産院)、座長：片岡弥恵子(聖路加国際大学看護学部准教授)、横山いずみ(総合母子保健センター愛育病院助産師長)、「Utilizing the Clinical Ladder of Competencies for Midwifery Practice : Let's Learn from the Actual Cases(「助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)の活用—取組事例から学ぼう)」安田陽子(一般財団法人倉敷成人病センター周産期センター看護副師長)、大城洋子(かみや母と子のクリニック)、久保絹子(東邦大学医療センター大森病院看護師長)、砥石和子(杏林大学医学部附属病院看護師長)、村田佐登美(社会医療法人愛仁会高槻病院産科病棟看護科長)、座長：原口真紀子(旭川医科大学病院看護部)、宮川祐三子(地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立母子保健総合医療センター看護副部長)、「Making the Case for Midwifery : A Toolkit for Using the State of the World's Midwifery 2014 Report to Create Policy Change

at the Country Level」Speaker : TBDFacilitator : Family Care International (FCI), ICM, 「The Global Fund Financing Facility in Support of Every Woman Every Child」

Speaker : Frances Day-Stirk(ICM President)、座長：Nester T. Moyo(ICM)／
閉会式

その他ランチョンセミナー／一般演題
(口演・ポスター)／エクスカーション(病院・助産院の見学)

参加費：

(～4/30)3万円 (5/1～6/17)4万円

(当日)5万円

助産学生5000円、大学院生1万円

問い合わせ：

〈運営事務局〉(株式会社コングレ内)

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1
弘済会館ビル

TEL：03-5216-5318

FAX：03-5216-5552

E-mail：icm2015aprc@congre.co.jp

http://www.icmaprc2015.org/

案内・募集

第35回 日本精神科診断学会

日時：8月6日(木)・7日(金)

会場：北海道大学学術交流会館(北海道札幌市)

テーマ：精神科診断学はどこへ向かうのか

プログラム：特別講演「The Uses And Misuses Of Psychiatric Diagnosis」Allen Frances(デューク大学医学部名誉教授)／教育講演1「医療にいかす精神科診断」大野裕(国立精神・神経医療研究センター)、2「分子イメージングによる認知症診断の進歩」大久保善朗(日本医科大学大学院精神行動医学)／メインシンポジウム「精神科診断学のあるべき方向性」精神病理学の立場から：加藤敏(自治医科大学精神医学教室)・治療の立場から：古茶大樹(慶應義塾大学医学部精神神経科学教室)・ICDの立場から：丸田敏雅(東京医科大学精神医学)・DSMの立場から：染矢俊幸(新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野)・Research Domain Criteria(RDoC)の立場から：橋本亮太(大阪大学大学院連合小児発達学

研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター疾患関連分子解析部門)／シンポジウム1「DSM-5の神経認知領域から精神疾患を読み解く」DSM-5で示されている神経認知領域(総論)：三村將(慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)・統合失調症における神経認知障害：村井俊哉(京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学))・双極性障害における神経認知障害：岡本泰昌(広島大学医歯薬保健学研究院応用生命科学部門)・Major Neurocognitive Disorder(認知症)の背景：池田学(熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野)／シンポジウム2「スペクトラムを考える—正常と異常の境界は?」自閉症におけるスペクトラム：本田秀夫(信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部)・強迫スペクトラムの現在とこれから：松永寿人(兵庫医科大学精神科神経科学講座)・気分障害におけるスペクトラム—不安障害との境界：塩田俊樹(岐阜大学医学部附属病院)・精神病的障害におけるスペクトラム：松本和紀(東北大学大学院医学系研究科 予防精神医学寄付講座)／シンポジウム3「児童・青年期におけるDSM-5をめぐる」統合失調症スペクトラム障害および他の精神病的障害：松本英夫(東海大学医学部専門診療学系 精神科学)・抑うつ障害と双極性障害：齊藤卓弥(北海道大学大学院医学研究科児童思春期精神医学講座)・心的外傷およびストレス障害：田中究(兵庫県立光風病院=予定)・DSM-5による「自閉症スペクトラム」：桑原斉(東京大学バリアフリー支援室)／ワークショップ「The Essentials Of Psychiatric Diagnosis」Allen Frances

【演題募集】

応募締切：5月15日(金)予定

問い合わせ：

〈大会事務局〉北海道大学大学院医学研究科精神医学分野

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

〈運営事務局〉コンベンションリンクージ北海道本部内

〒060-0003 札幌市中央区北三條西3丁目1 札幌大同生命ビル

TEL：011-272-2151

FAX：011-272-2152

E-mail：jspd35@c-linkage.co.jp

http://www.c-linkage.co.jp/jspd35/index.html

案内

日本看護教育学会 25周年記念大会

日時：8月29日(土)10:00～16:40

場所：前橋市民文化会館小ホール(群馬県前橋市)

テーマ：看護職者の可能性を拓く研究の継続

プログラム：基調講演「看護教育学に導かれたキャリア・ディベロップメント」宮芝智子(神奈川県立保健福祉大学)／演題発表および研究批評／シンポジウム「研究の継続—その意義と課題」／懇親会

参加費：7000円(事前)、8000円(当日)

※懇親会5000円別途

申し込み：学会ホームページより

申込・参加費振込締切：7月31日(金)定員になり次第締切

問い合わせ：事務局

〒371-0052 前橋市上沖町323-1 群馬県立県民健康科学大学

TEL：①080-4198-8815

②090-6025-0352

E-mail：jasne_25@yahoo.co.jp

http://jasne.umin.jp/

案内・募集

国際混合研究法学会 アジア地域会議 日本混合研究法学会 第1回大会

会期：9月19日(土)・20日(日)

※9/20は日本質的心理学会との合同開催

会場：宮城教育大学(宮城県仙台市)

テーマ：混合研究法への誘い—学の境界を越えて

【演題募集】

発表応募締切日：5月15日(金)

応募方法：

http://www.jsmmr.org/conference2015/endai 参照

http://www.jsmmr.org/

助成

小倉一春 国際看護奨学基金 平成27年度奨学生募集

給付の目的と性格(抜粋)：保健・医療・看護は国籍や人種の別なく全人類の共通の課題であるとの考えを基本に(中略)国際看護を学ぶ優秀な大学院生で経済的な理由により修学困難なものに対して、奨学金の給付を行ない、国際社会に貢献する有用な人材を育成する(奨学金は返済不要)

応募資格：

①日本国内の大学院(修士課程・博士課程・専門職大学院)に在学する者で、国際看護を専攻・履修する者

②平成27年4月入学許可および平成26年秋期入学の1年次在籍者

③他の奨学金の貸与・給付受給者も受給可

給付期間・給付額・給付時期：

上記在籍開始から2年間(秋期入学者は1年6か月)・月額6万円(年間72万円)・年2回(7月・10月)

募集人数：20名

願書提出期間：4月1日(水)～5月15日(金)(消印有効)

提出書類等：国際看護交流協会ホームページ http://www.infj.or.jp 参照

※申込書の様式ダウンロード可

問い合わせ：

国際看護交流協会・小倉一春記念国際看護奨学基金／奨学生募集担当(柏川継廣)

TEL：03-3264-6667

FAX：03-5275-3499

E-mail：shougakukin@infj.or.jp